

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12294

研究課題名（和文）ボンディング障害の全容解明を目指した周産期総合的アプローチ

研究課題名（英文）Classification of bonding disorders and related factors

研究代表者

末次 美子（Suetsugu, Yoshiko）

九州大学・医学研究院・講師

研究者番号：70437789

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、母親の子どもに対する情緒的反応であるボンディングの分類を行い、ボンディング障害の関連要因を明らかにすること、及びボンディング障害をスクリーニングするために質問紙のカットオフ値の検証を行うことである。妊娠中期の妊婦をリクルートし、妊娠中期および産後1か月時に面接法と質問紙法を用いた調査を実施した。母親のボンディング障害の分類と関連要因を明らかにし、また面接法と質問紙法の併用により、ボンディング障害をスクリーニングするための質問紙のカットオフ値の検証を行った。本研究の成果により、ボンディング障害のリスクのある母親をスクリーニングし、出産後の母親への支援について重要な示唆が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

質問紙と面接法によって得たデータから、対象の母親の赤ちゃんへの情緒的反応であるボンディングの分類を行うことができた。面接法を行ったボンディングの分類をもとに、情緒的反応の障害をスクリーニングするための質問紙のカットオフ値の検討を行った。産後4日目時点、産後1か月時点での質問紙のカットオフ値を陽性的中率・陰性的中率、偽陰性・擬陽性の視点から検証を行った。本研究成果により、ボンディング障害のリスクのある母親を同定し、適切な産後のメンタルヘルスケアにつなげるための示唆を得ることができた。今後は様々な対象者において質問紙のカットオフ値の検証を行うことが課題である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to classify bonding, a mother's emotional response to her child, to determine the factors associated with bonding disorders, and to validate the cutoff values of a questionnaire to screen for bonding disorders. Pregnant women were recruited in the second trimester of pregnancy and surveyed using interview and questionnaire methods at mid-pregnancy and one month postpartum. The classification of maternal bonding disorders and associated factors were identified, and the cutoff values of the questionnaire for screening bonding disorders were validated using a combination of interview and questionnaire methods. The results of this study provide important suggestions for screening mothers at risk for bonding disorders and for providing support to mothers after childbirth.

研究分野：助産学、臨床心理学

キーワード：ボンディング障害 情緒的反応 妊娠期 産褥期 母親

1. 研究開始当初の背景

出産後1か月までの母親は、赤ちゃんとの新生活に疲労感や不安感を抱きやすい。しかしながら疲労感や不安感にとどまらず、赤ちゃんから離脱した感情を抱き、出産後3ヵ月時点で子どもに対する情緒的反応が遅れたり欠けてしまう母親が存在することが報告されている (Robson, 1980)。Brockington (2004) は、この情緒的反応の障害をボンディング障害として、産褥期の女性に生じる障害の一つに位置づけ、母親の赤ちゃんに対する情緒的反応の障害をスクリーニングし分類するための面接法を発展させた (Brockington, 2001)。

産後うつ病は、母親のメンタルヘルスの不調と養育機能の障害、子どもの発達に影響を及ぼすことや、妊娠期からの支援の重要性が認識されている、しかし同じように母親のメンタルヘルスや子どもへの影響をもたらしうるボンディング障害については、その実態把握や支援策についての検討は不十分である。本研究では、母親の子どもへのボンディングがどのように分類されるのか、その実態と関連要因、及び質問紙によるスクリーニング可能性について検証する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、母親のボンディング分類の実際を明らかにすること、ボンディング障害の関連要因を明らかにすること、ボンディング障害をスクリーニングするための質問紙のカットオフ値を検証することである。

3. 研究の方法

1) 研究デザイン

研究デザインは、記述的因子探索研究である。

2) 研究対象者

適格基準：

- (1) 外来にて診療可能な妊娠経過をたどる者。
- (2) 妊娠20週未満の時期に、大学病院産科外来で妊婦健診を受診した者。

除外基準：

- (1) 出生後の生存が困難である重篤な胎児異常がある者。
- (2) 研究者が研究対象者として適当でないと判断した者。

3) 調査方法と内容

(1) 自作質問紙・診療録による情報収集

年齢、学歴、経済状況、家族背景、妊娠期から産褥期・新生児期の医学的情報

(2) 面接調査

スタッフオード面接法 (6th edition of the Birmingham Interview for Maternal Mental Health) (Brockington, 2014) を使用する。スタッフオード面接法は、妊娠中から出産後1年までの女性を対象に行う面接で、母親の胎児および乳児に対する気持ちの障害を評価するものである。面接に含まれるものとして、妊娠期の社会的・心理的・産科的背景、胎児のウェルビーイング (胎児に関する妊婦の認知・情緒・行動の評価)、分娩時の精神疾患、分娩に関する情報、分娩時の心理的医学的背景、産後の精神疾患、母子関係性等があり、半構造化面接法の形式で行う評価面接である。

本研究では、妊娠期の社会的・心理的・産科的背景、胎児のウェルビーイング (胎児に関する妊婦の認知・情緒・行動の評価)、産後の母子関係性の部分を抽出して使用する。

スタッフオード面接法によって分類される情緒的反応の障害の種類は、1. Mild Disorder (軽度障害) 2. Infant focused anxiety (赤ちゃんに対する不安) (Mild anxiety 軽度・Severe anxiety 重度) 3. Pathological Anger 病的な怒り (Mild Anger 軽度・Moderate Anger 中程度・Severe Anger 重度) 4. Threatened rejection (拒絶の恐れ) 5. Established rejection (拒絶) である。

(3) 質問紙調査

日本版エジンバラ産後うつ病自己評価票, Edinburgh postpartum depression scale (EPDS) 日本版 EPDS は、Cox et al. (1987) が開発したものを、岡野ら (1996) が翻訳し日本版を作成した自己報告式質問紙である。この尺度は10項目4件法であり、cut off ポイント8/9と設定されている。

赤ちゃんへの気持ち質問票, Mother to Infant Bonding Scale (MIBS)

MIBS は、Marks らの研究チームによって、周産期に産後うつ病を代表とする精神障害に罹患した母親の母性感情の発展についての一連の研究結果に基づいて開発された、情緒的反応の障害の評価尺度であり、Yoshida ら (2012) によって日本語版 MIBS として開発された⁴⁾。この尺度は 10 項目 4 件法である。

Postpartum Bonding Questionnaire (PBQ)

PBQ は、Brockington (2001) によって、情緒的反応の障害をスクリーニングするための質問紙としてデザインされた情緒的反応の障害の評価尺度であり、Suetsugu ら (2015) によって日本語版 PBQ が開発された⁵⁾。

(4) 新生児神経学的評価法

デュボヴィッツ新生児神経学的評価法

4) 調査手順

調査手順は、妊娠中期の妊婦を対象としてリクルートを行い、半構造化面接法と質問紙法、産後 1 か月にて半構造化面接法と質問紙法を実施する。新生児が NICU 入院となった場合は、産後 1 か月にて質問紙法、児が退院後 1 か月時点で半構造化面接法と質問紙法を実施した。また妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の情報をカルテから収集した。

5) 倫理的配慮

本研究は所属機関の倫理審査委員会の承認を受けて実施した (2020-776)。

4. 研究成果

1) 対象者

選定基準を満たした妊婦 45 名にリクルートを行い、37 名 (82%) から研究参加の同意が得られた。37 名に妊娠期の調査を実施し、その内産褥期の調査の同意が得られた者は 25 名 (56%) であった。25 名の内、産褥期の質問紙の返送が得られた者は 20 名 (44%) であった。本研究では 20 名を対象とし分析を行った。

年齢は 24-46 歳 (平均 33 歳)、10 名は初産婦であった。すべての女性は高卒以上であった。経済的困難な者はいなかった。すべての女性は望んだ妊娠であった。すべての女性は、合併症または産科合併症があった。新生児の神経学的評価では著しい発育の遅れが認められた児はいなかった。

2) スタッフォード面接法によるボンディング分類

20 名の内、14 名は Normal Bonding (正常なボンディング)、5 名は Mild Disorder (軽度障害)、1 名は Mild Disorder (軽度障害) と Severe Anger (重度の怒り) が共存していた。

3) 関連要因

Mild Disorder (軽度障害) の母親は、精神疾患の既往、重要他者との死別、離婚歴、パートナーとの不和、理想とのギャップ、子どもの疾患等があった。重度の怒りを示した母親は虐待歴があった。

Mild Disorder (軽度障害) の母親は、いずれも家族から情緒的実質的サポートが得られていた。もし情緒的サポートや実質的サポートが得られなければ、より重度の情緒的反応の障害に発展したり、二次的に産後うつ病等の精神障害を発症したりする可能性がある。Mild Disorder (軽度障害) の母親をスクリーニングし、情緒的サポートや実質的サポートの有無の確認を行い、もし不足することが予測される場合は支援体制を整える援助を行うことが重要であると考えられる。

分娩歴、不妊治療歴、教育背景、ソーシャルサポート、婚姻状態において、normal bonding 群 (n=14) と Mild Disorder 群 (n=6) とで有意差は認められなかった。本研究結果を一般化するには限界があるが、質問紙による背景因子の査定のみでは、情緒的反応の障害、特に軽度情緒的反応の障害のある母親を抽出することが困難である可能性がある。

4) MIBS と PBQ のカットオフ値

MIBS と PBQ は、ボンディング障害をスクリーニングするための質問紙である。スタッフォード面接を行ったボンディングの分類をもとに、情緒的反応の障害をスクリーニングするための MIBS と PBQ のカットオフ値の検討を行った。産後 4 日目時点、産後 1 か月時点での MIBS と PBQ のカットオフ値を陽性的中率・陰性的中率、偽陰性・擬陽性の視点から検証を行った。今後は様々な対象者において MIBS と PBQ のカットオフ値の検証を行うことが課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Nishikii Y, Suetsugu Y, Yamashita H, Yoshida K.	4. 巻 12
2. 論文標題 Use of the Stafford Interview for assessing perinatal bonding disorders.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Case Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bcr-2018-228696.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------